







猶乃孀手上

○安

あ 音_アニ_ハフ_ノの_シを_スル_辞。古_中 音_ア孀_者耶。同_阿安_美耶_古逆。方_五あれ_念。同_止 あを

あぎ 音_ア思_の思_語こ_人を_キ〜_〜あ_ぎ 音_ア子_ニ。日_神武_阿 日_神伊_伊休_休あ_荒。古_中 休_邪ぬ_ああ_荒 語_孫阿_孫。方

あがせ 音_ア見_ニ又_あう_せこ_も。友_も夫_も見_をも_さ〜_〜あ_が 音_ア見_子。日_仁後 持_臣之_妹あ_山〜_〜あ_が 持_臣之_妹あ_山〜_〜あ_が

あぐねー 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ

あぐいしん 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ

あぐいしん 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ 音_ア走_ニ〜_〜あ_ぐ

ついでにこきりハ。古今ちハやふる祢のいつきよそよ
くても杖よハあへんにうろひにけ。たて
りこ。万五。このときまりよ
あまこようぬる
あまりに 餘思のあまり切なるをりよ。万六つ
ぬ人乃こふとりよよりハあまりよて

われハちぬへくか
アコチらちや
あまたせつらひ 天馳使こ。古よい
よ。万十三。わませのまとぬるハ吾のこかし
ゆるのたここく 馳行使とりよなる。一し

あまこようぬる
天也天翔
よふ目し
あまらものまらぬる人。天のつよ人ハわれのうるとりよ目し

あめのこかと 天皇を中なるをりよ。万廿一。こきや天のこかとをかけつれハ
かこつり。古今のぬうものこの山なる乃分の九段
あめのこかとをうへむらとふハ天智天皇をPもるこ
たらしし 天地に思思く思思ひのて地よこちををりよ。万十三。天地ハ思ひたらん

あやほえ あよく 危し。万十四。あれのうへよこまをつあきてあやハ
か。同廿一のものこまにあよくちやめかも あや

あえぬりに 欲落也。万八。むよぬくさ月をちうこあえぬ
か。同十八。あぢるこいむよぬき。源あえうと

あもや 天降也。万十三。あもりまけむ五万方ふよつ神
う。同三。あもりつこあめのかこ山かをこつ

あらかあ 争し有を言といいけり。万
あらあ ぬかきりハあら一と。う思よ。まらよ

あらなく 不有也。万六。尺ともわく
へきこつ。みあらなく。あらすぶる 惹傷之疎くはる
あらしを 荒雅也。万十七。あらしを
あらなく ぞらふあけきふせらむ
あらしを 雑歩行也。万十六。蘇をあとうまくと
あらしを ありさ

あらしを ありさ

あらしを ありさ

あらしを ありさ

あらしを ありさ

あらしを ありさ

あらしを ありさ

あらしを ありさ

アて 在在而也。方四ありさうりて あアうるものにあれや 在得お名有

まーくむしりありあア あひこしめとろ 令相見之。方三妹をめ あうか 裁之。方五志

に 暖之。方三つうのやこいまし 天所知在之。方三あせ ああーらあぬき らしぬれこいまらひ

ひつちちりけ、とせむまへもまー 不欺之。方五あさむかいたて あさむかば よわけきてあまちーらしめ

。同四ゆりのむらと 淡之。方四あろ、 ありこせぬかも 有社不ぬ

にあさむかれけ にわかつたれとも あまのさうて 天逆

まとせいほとせ 令ぬ浴之。方十六捨捨より あめつちにさうーいーらぬ 太白星之

あむさむ るるきつにあむさむ あうぼー この日せ出る

ときハ夜のぬるあまふたへるあ。方五ありほーのあくるあ 曉之。方十一 あかとき 旭時。同

。和歳星一名明星世間言阿かほ之。よへま出るさよマとよ アカキツユ あら アカキツユ

八五更。同十 鶏鳴雲形。同 曉月。二在ぬ月あー アカキツユ あうー 令明而之。方十一

。同十一 月夜あうときやえ。夕月に曉月まきを アカキツユ あさこと 朝産

。表をぬー 明闇之夜のぬまをむ。てきうーとら あさし 朝産

てゆけ なるをよ。方四ぬれのぬきりこり あさし 朝産

。日崇神 うまさけ三ツの角の朝産に あさごち 朝東風之。方十一朝ごち

も。方十 朝産出入りあうようひを にめてるぬらこ乃 あさし 朝産

ほ 朝産之。方十坂はより朝 あさよひ 朝産

し しほまちよりこつこ あさひがけに 朝産

大 そのつ甲の子あさよ あさくらん 朝産

はへる山 山の名乃艶をさるをよ あくるあした 明朝之。方十五あくるあした

あけがあくとも 明者能ぬし あきつけ 杖は成乾之朝つく夕つく

つけハ尾花のうへヨリきき風の。同九
つぐねのまきくをいしとるハ在の月を
きにあせり
あまぢ
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あつけき
執つけきハきの近き。遠きを
けきとふくこと。方九あつけ
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢ
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

あまぢのた
天照。方五久。あまぢとほり
あまぢのた
あまぢのた
あまぢのた

○方正 天地の神をうつ
祈いもまへん
あらひとかこ 日景行 吾是現人神之子也。○方正 位名の
荒人神の船のへまうーえきたまひ。後後

十九 現人神と成とまひ。和現人神。袖あまらるる荒人神のあひおひをねりひさー位名
乃神。後神北也まよせまらねりひつやあまきまをこつかうんきとあう人神もありむ

かーあが 縣。○方七 あをこあうこ乃物流せむ
古今よりあうこんよりえいてたしや あさぢなぎ 船潮のわし。○方七 船な
きよあまらるる浪こま

くほ あさぢ ○方七 船な
出まらら あさぢらき 船なよ船こき出まをいふ。○方三 世のけを
まらたといむ船ひらきこかに一舟の

あしき ○方七 船なよ
あしきうこし。後の所集よ あさぢぬ 浅小竹系。○日 景行 あさぢぬ系
こーなつむ。○方正 神あはのあさ小

竹 あさこ ○方七 船なよ
あさこえと あー ○日 神代 典
草系系系

杖端極之杖。古上 草系系系杖也五石杖也之
植心。○方正 あー系乃も植のむ丹も向ぬと
人あーひこくわのましたれと。六植風よけさるえよ

けり出てうあしきうこしやうさううりる。 あら ○方七 草系系系
こにあらこーつくも

あげ ○日 神代 見作田若汝可作津田
○方正 あををわいして上よたひまき あざに ○方正 さ浪のなこらんあさよあ
こさち。とも田のあせとりいへきる

あん ○方正 田 あんのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あとおな ○日 神代 粟田豆田。同 神代
ありあにいか

あは ○方正 田 あはのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あぶ ○方正 田 あぶのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あを ○方正 田 あをのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あを ○方正 田 あをのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あを ○方正 田 あをのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あを ○方正 田 あをのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あを ○方正 田 あをのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あを ○方正 田 あをのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あを ○方正 田 あをのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あを ○方正 田 あをのうへよ物をつなきてあやほ
ことくかろくえんこー。○方正 奥ん あら ○方正 粟田山園は海草
若浪若草若草若草

あかも 紅雲之。方六をとめ 丹塗の舟。方十六。同三
らう赤もをうり 山下のあけろう舟

あきかち 赤酸醬。同三 赤酸醬。同三
あうごま 赤約之。日天智 ありこま。方四 ありこまのこ
ち。同三 ありこまをやくゆきこせ。同三

あがる 揚之。方サ あさなさなあ 軟鳥之。方サ
ハ馬乃赤なり 雲雀 ありひちりふなりてり

あさからん 軟鳥之。方二 軟鳥之。方二
あさる 求食之。日天智 ありひちりふなりてり

あし 鶴之。方一 鶴之。方一
あし 鶴之。方一 鶴之。方一

あぢむら ち鴨之。方一 鴨之。方一
あぢむら ち鴨之。方一 鴨之。方一

あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり
あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり

あをらま 者之。方一 鴨之。方一
あをらま 者之。方一 鴨之。方一

あきら 丹塗の舟。方十六。同三
あきら 丹塗の舟。方十六。同三

あさ 軟鳥之。方二 軟鳥之。方二
あさ 軟鳥之。方二 軟鳥之。方二

あさとり 求食之。日天智 ありひちりふなりてり
あさとり 求食之。日天智 ありひちりふなりてり

あし 鶴之。方一 鶴之。方一
あし 鶴之。方一 鶴之。方一

あぢむら ち鴨之。方一 鴨之。方一
あぢむら ち鴨之。方一 鴨之。方一

あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり
あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり

あをらま 者之。方一 鴨之。方一
あをらま 者之。方一 鴨之。方一

あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり
あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり

あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり
あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり

あをらま 者之。方一 鴨之。方一
あをらま 者之。方一 鴨之。方一

あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり
あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり

あさ 軟鳥之。方二 軟鳥之。方二
あさ 軟鳥之。方二 軟鳥之。方二

あさとり 求食之。日天智 ありひちりふなりてり
あさとり 求食之。日天智 ありひちりふなりてり

あし 鶴之。方一 鶴之。方一
あし 鶴之。方一 鶴之。方一

あぢむら ち鴨之。方一 鴨之。方一
あぢむら ち鴨之。方一 鴨之。方一

あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり
あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり

あをらま 者之。方一 鴨之。方一
あをらま 者之。方一 鴨之。方一

あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり
あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり

あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり
あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり

あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり
あむ 蛇之。日天智 ありひちりふなりてり

ちてふたうと花さけりとりよ。六あせとよあり

あぢきぬ

和紫陽花あり
休ぬ。六にいらふ

。方井池あふれさへ入てほにけよあーひのた

あへたちぢぬ

和橙あほたあはふ
似神而小若くと花柳

さけるあつきの花とふりりけふもにせぬよ花さきてうら花でもてうむるうこと

あふひ

。方十六
葵花後

一様花の上界より。方四こころいぬまきらあちさおとよめるもせとハ五尺サ

あやめ

菅蒲草。方十あやめあつらふせ
む日こちもきりれ。後紀天平十九

よもぢりてあめ

あせ

。方十六
あせ

とりのこれう。方土うまうまの

あせり

。方十六
あせり

あへ橋のこけむれまてに。甘橘

あせり

。方十六
あせり

年詔曰昔日五日之る南用言蒲為漫時来已傳此より後今而後非言蒲漫老

あせり

。方十六
あせり

加入又中。延凡五月五日その令文武郡官英言蒲漫。本名言蒲除一切悪習

あせり

。方十六
あせり

午日如言蒲

あせり

。方十六
あせり

酒飲之

あせり

。方十六
あせり

あをな

あせり

。方十六
あせり

あをな

あせり

。方十六
あせり

あをな

あせり

。方十六
あせり

あをな

衣 喪服。方十三

あさゆきま

。方五
あきつえ

杖はまの紅らふ。
さり衣をつら

る。蛇蛉のこころに夜をうらうらきるうらう。方三杖つての神ぬ。妹。同十三あ

きつひれ。日に徳 あらむしうひむしうころもとどしたまへる。夜をうらうし

あらがめ

。方十三
あらがめ

あらたへ

阿良も信。方一あしたへの夏あうらへに

。彙着草名蔓生根不食。可作布

あをきくぬぎさ

。方十九
あをきくぬぎさ

あつきの

。方十六
あつきの

あこせ

。方十六
あこせ

あこせ

あこせ

あこせ

あはせ 裕之。万十つるもの
あふぎ 扇之。万九あふぎ
あぶき あふぎのうしろせハ
あぶき 扇之。万九あふぎ
あぶき あふぎのうしろせハ
あぶき 扇之。万九あふぎ

あーわけをぶ祿 ○万十二草舟
あーからを

ぶ祿 足輕舟。古下先すゆ之西有る樹其樹之乾南且日老速流路高去南夕日老
あーひなきをあら 無價室。○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

あーひなきをあら ○万三あーひなき
あーひなきをあら ○万三あーひなき

いにへのま 古風。日垂仁 いとまなく 無暇。○方五

いかに 源。○方五 いかに 源。○方五

いかに 源。○方五 いかに 源。○方五

いなせ 不口諾。○方十六 いなせ 不口諾。○方十六

いりさまに 何方。○方一 いりさまに 何方。○方一

いみだま 入乱。○方一 いみだま 入乱。○方一

いむふ 這伏。○方一 いむふ 這伏。○方一

いまけり 今慶。○方三 いまけり 今慶。○方三

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

いさ 不知。○方十 いさ 不知。○方十

○万七 西の市に
たぐひり出て

いほほららゆきまほほふき

○万七 農家らちとほへきま
らまもあまのほまゆり

いそかきふち

石垣の山をよいほほの光るれをい○万七かきろひり石垣ふ
ちりかかれよハ古今たぬ山の石垣をちちりぬへてひの光るるとき

いそたてこがこちやま

石垣山にまゆのき山といふ日し○万七
たこかとき山とちりつをわねはらるる

いそら

あるし○日唐祿かぬをあらにやき一あまりをにりひひくや
ら乃とのとちり乃いりなふれとちまの女のさや○万七からのさき

いほへなほ

○万七 五石を波立てて
ぬてとつちりへる

いろづくやま

黄毛一坂山
さりよ○万七

いそくら

○日神代 離天盤座那天ハき立。堀 兼昌
いこま山

いそほく

いへにーて

○万七 家子て共ハこむないをいそ乃あ
さちよにりーつく夜を。家子てハ家

旅屋にいわといハ離言て家
居いほりといハ用云て旅の

いほりもる

いほりもる

旅屋にいわといハ離言て家
居いほりといハ用云て旅の

いほりもるやちりも日一。万七 舟ちてかー振立て

いそど

板戸○万七さちりりこと
さな流るるハなへん

いそぶき

○日神代 花を板蓋え。万七 板子きのころさ
りぬハ山道一。源きま 板子き骨のちり

いへかぜ

板つら風○万七ハ
か管ハいにくぬけと

いそちちて

家言持○同上ハ
ちちてあま人も取し

いそむへかり

未苗○万七 土
たをるり竹松ハきれ

いそさのたあつとの

○日神代
五穀

いそつじ

○万七
こほ

いほえさし

○万七 五石板刺まに
せとるつら本の

いせのたまをぎ

いそてうま

伊

いぬーの

犬自抱
持自抱

いそてうま

伊

いそてうま

伊

麻自抄る自抄男有字れありこまたままにと

よつて^{○方五}いけりそのたにきてや命をまむ

せつり^{○方三}と^{○方五}古上せつりきし^{○方三}とむ^{○方三}庭つり^{○方三}け^{○方三}な^{○方三}く

^{○方三}まつり^{○方三}かけ^{○方三}を^{○方三}ま^{○方三}き^{○方三}さ^{○方三}来^{○方三}ハ^{○方三}ゆ^{○方三}け^{○方三}ぬ^{○方三}入^{○方三}て^{○方三}か^{○方三}ら^{○方三}ぬ^{○方三}む

^{○方七}垣^{○方一}に

いぬまほえころ

^{○毛}指無使

いむりる

有せ吠[○]

まよを[○]古今より[○]に[○]て[○]ふ[○]れ[○]ら[○]る[○]入[○]紐[○]の[○]け[○]ら[○]ふ[○]い[○]さ[○]む[○]を

ひてむ[○]装束の[○]首[○]の[○]紐[○]に[○]雌[○]雄[○]の[○]名[○]を[○]う[○]れ[○]を[○]入[○]て[○]紐[○]を[○]入[○]紐[○]と[○]り

かり[○]う[○]ら[○]ぬ[○]乃[○]と[○]も[○]あ[○]も[○]あ[○]ぬ[○]あ[○]ぬ[○]に

いたやくー

いたやくー

いつるや

いつるや

いづつどり

富原も[○]し[○]勢[○]ハ[○]家[○]も[○]候[○]ハ[○]ハ

いぬまほえころ

大加吠社[○]方[○]三[○]吾[○]指[○]を[○]い[○]ぬ[○]を[○]ほ[○]え[○]ころ[○]。松[○]に[○]き[○]き

その[○]思[○]ひ[○]て[○]る[○]人[○]を[○]あ[○]り[○]て[○]吠[○]つ[○]大[○]ハ[○]う[○]ち[○]も[○]こ[○]ら[○]一[○]つ[○]へ[○]し

入[○]紐[○]の[○]方[○]何[○]ゆ[○]を[○]に[○]む[○]を[○]ん[○]あ

ら[○]む[○]紐[○]の[○]を[○]ら[○]ん[○]に[○]入[○]て[○]こ[○]ひ[○]

いろどる

糸[○]指[○]而[○]。方[○]四[○]の[○]り[○]の[○]り[○]と[○]こ[○]ら[○]あ

ひに[○]ふ[○]れ[○]ら[○]し[○]と[○]ち[○]ち[○]て

いづべ

いづべ

いひ

いひ

いづべ

ほりまを

いづりねら

上重[○]下[○]。方[○]十[○]大[○]船[○]の

○字

いづりねら

夏[○]ミ[○]き[○]う[○]う[○]け[○]く[○]う[○]く[○]な[○]と[○]ら[○]わ[○]一[○]月[○]。方[○]十[○]あ[○]か[○]ち[○]も[○]う[○]う[○]ね[○]ら[○]い

い[○]や[○]に[○]同[○]。方[○]十[○]き[○]こと[○]あ[○]れ[○]や[○]え[○]う[○]ま[○]ま[○]ま[○]ぬ[○]。同[○]九[○]廿[○]の[○]中[○]の[○]う[○]け[○]く[○]つ[○]け[○]く[○]ま[○]

今[○]四[○]乃[○]中[○]の[○]う[○]け[○]く[○]に[○]あ[○]ま[○]ぬ[○]妻[○]山[○]乃[○]こ[○]の[○]系[○]に[○]あ[○]れ[○]つ[○]ゆ[○]き

ち[○]け[○]な[○]す[○]。同[○]う[○]く[○]ひ[○]ひ[○]の[○]し[○]も[○]乃[○]な[○]く[○]ら[○]む

か[○]み[○]く[○]さ[○]り[○]。月[○]現[○]。う[○]き[○]を[○]え[○]き[○]の[○]た[○]く[○]ひ[○]ね[○]お[○]け[○]。源[○]み[○]ま[○]な[○]。冠[○]を[○]と[○]け[○]り[○]て

う[○]ら[○]む[○]う[○]ら[○]む[○]い[○]と[○]を[○]こ[○]あ[○]る[○]。一[○]。と[○]俗[○]。屋[○]を[○]祀[○]とい[○]へ[○]ハ[○]を[○]こ[○]を[○]音[○]に[○]と[○]る[○]一[○]と[○]ら

う[○]か[○]き[○]う[○]け[○]か[○]む

う[○]か[○]ぬ[○]ら[○]ひ

う[○]け[○]ひ

う[○]け[○]ひ

う[○]ら[○]む[○]ら[○]む

う[○]ら[○]む[○]ら[○]む

う[○]ら[○]む[○]ら[○]む

う[○]ら[○]む[○]ら[○]む

う[○]ら[○]む[○]ら[○]む

う[○]ら[○]む[○]ら[○]む

う[○]ら[○]む[○]ら[○]む

う[○]ら[○]む[○]ら[○]む

う[○]ら[○]む[○]ら[○]む

うーろもろれにわきてうらむ
。俗うーろくきとよは日

うーろもろれ

不忘失。万十五
れりてれりせこたにわあめまてれ

うーろもろれ

。張座。万十五
八船の船にうーろきゆい。祝吾地止宇後波夜座止。此

領知まろ
。万九けきききまの根とり。うらあきのけり。毛信

。浦者。口出。心舒。積。多。と。世。後。乃。積。衆。に。うらあき。と。よ。返

面之威足
。後。紀。け。き。れ。あ。く。こ。あ。き。け。い。こ。ぬ。し。共。に。ま。世。に

口之貌

と。れ。き。き。たり。万。三。い。さ。に。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

將新。万十六。きまの
。か。い。に。あ。て。て。い。む

か

。虚。恥。之。又。仙。未。必。い。かり。き。ま。う。万。三。い。さ。に。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

けあま。同。十五。と。る。む。ろ。の。木。う。か。と。も。し。く。き。耐。を。ま。き。し。け。か。も。仙。を。抄。こ。か

た。か。り。う。ら。む。る。を。り。と。和。津。而。際。上。は。起。る。覆。血。や。太。大。後。思。ひ。川。流。ん。な。か。り

。古。上。其。思。德。不。止。而。轉。同。下。う。ら。あ。き。と。よ。は。日

ふ。の。飽。の。い。か。こ。人。に。あ。り。て。き。え。ち。や。万。十。う。ら。あ。き。と。よ。は。日
。か。れ。る。身。ろ。と。も。ち。う。ら。あ。き。と。よ。は。日。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

に。長。に。あ。り。て。き。ま。の。け。り。か。も。古。今。ち。う。ら。あ。き。と。よ。は。日。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

きま

。私。記。之。師。説。云。秋。此。や。且。か。之。は。ふ。ま。へ。け。後。ふ。富。万。九。酒。こ。き。ま。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

た。ぬ。さ。い。あ。せ。か。む。う。ら。あ。き。と。よ。は。日

うらあき

。後。使。之。万。九。あ。ら。の。こ。ま。の。の。う。ら。あ。き。と。よ。は。日。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

や。い。ふ

。偏。之。又。向。之。万。十。う。ら。あ。き。と。よ。は。日。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

に。ち。さ。ん。し。や。ん。一。五。一。日。の。時。と。わ。ら。れ。ぬ。は。あ。る。位。の。に。は。母。き。い。ま。う。ら。あ。き。と。よ。は。日

あ。り。ま。ち。と。つ。て。け。り。へ。く。う。ら。あ。き。と。よ。は。日。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

あ。こ。こ。う。ら。あ。き。と。よ。は。日。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

を。ら。う。ま。い。に。あ。り。け。り。源。草。ら。に。の。花。を。こ。い。に。も。ゆ。る。ま。て。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

へ。に。わ。り。ひ。も
。天。竺。神。地。坐。神。の。相。了。豆。事。比。奉。禱。後。信。祝。多。神。等。相
。万。五。乃。比。万。八。あ。ら。の。ち。の。神。わ。ら。う。ら。あ。き。と。よ。は。日。の。ま。ま。し。て。終。思。祥。思。や。い

もいふなりきりつとるれの契うけりてへー。伊あつさ
さうつきさう羊をへてつうてー。こころさー。こせよ
ーきこととをともて。方ハつさ。ことあつりんませハ
いふつりけあま宮乃うきー。からまー
たきや志ほ。きれあつさのうらむきん。伊あれさあとのこれ
しきハかりにも思のまこくしりり。源 権 つけあきてけしきめつれまきに
ハふこ 題之。伊うらまきにむさー
ちふことかきて。日孝徳 題
いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

いづらやすー 賭之。古中と依
のりけつこころ

うさゆつる

儲子孫の古中自頂髪中採出設法此言は休中互留。日神の備髪

うさゆつるま

。後牛車使

うさゆつる

表符ゆつる。方五あひきるにうにう

くもるを

うつちかひ

虚石花負の互うつちかひ

う

。和茎捕奥竹荷也。万土山川に之を伏た

きてよりあへぬ。毛持谷凡母遊我梁母發我荷。丸くををあててうををいりうて
うも奥乃あぬやうに川あのみ。日ちよにあてれば、船をさし、荷かりて首を
さしてさすれ
てとらまへし

○心

え

愛之吉の古上あなにやーえを
とこま。日神代あぬいもま

えはや

得為表の。方十たのりまねとほやえ
やと。えまやえせとかへん

えり

得在の。方ニわねもや
やまなこえり

えたち

。日神代。同。餘明。課。方十。
えちまをなれあうかに

えこ

。日神代えりをり
きりなると。同。基仁。輟。東

えらねーわきり

被擇哉の。方十えらね
われうよひりぬ

えのこ

。方十。昔如との板のまをりをむるよ
るちりいれと。君。不。き。ま。ま。ぬ

えごひとち

。方十。い。は。さ。さ。の。枝。啄。持。て。あ
かける。ま。ち。源。こ。ま。ち。ち。ち。ち

。方十。い。は。さ。さ。の。枝。啄。持。て。あ
かける。ま。ち。源。こ。ま。ち。ち。ち。ち

えいさーにけ

。方十。三。枝。ハ
刺りけり

えいさ

。東。諸。帯。ま。え。ひ。と。わ。あ。れ。二。方。十。わ。ま。を。つ。う。へ
かりてううーまえひりううあやまかもねむ

○衰

え

。助。持。の。方。十。ほ。く。き。ん。く。に。ち。ら。く。を。き。こ。ち。ま。ま。て。よ。伊。ろ。う。あ。り。ろ。う。を
をらしていし山。うつ。不。枝。の。ま。ま。き。を。ち。ふ。と。う。ま。よ。て。風。に。吹。た。に。う。ら。み

。日。神。代。氏。雍。在。雷。神。登。謂。言。余。曰。予。劍。号。曰。部。靈。今。當。置。汝。庫。裏。宜。取。而。獻。之。天。孫。言。余。曰。唯。一。而。語。之。

を

。呼。ま。か。し。の。方。十。わ。り。り。舟。の。せ。を。と
よ。あ。ま。り。う。ら。ね。な。か。も。ね。ら。も。や。ぬ

を

。唯。一。之。漢
よ。み。ち。ち

。日。神。代。氏。雍。在。雷。神。登。謂。言。余。曰。予。劍。号。曰。部。靈。今。當。置。汝。庫。裏。宜。取。而。獻。之。天。孫。言。余。曰。唯。一。而。語。之。

を

。招。之。日。神。代。氏。雍。在。雷。神。登。謂。言。余。曰。予。劍。号。曰。部。靈。今。當。置。汝。庫。裏。宜。取。而。獻。之。天。孫。言。余。曰。唯。一。而。語。之。

を

。招。之。日。神。代。氏。雍。在。雷。神。登。謂。言。余。曰。予。劍。号。曰。部。靈。今。當。置。汝。庫。裏。宜。取。而。獻。之。天。孫。言。余。曰。唯。一。而。語。之。

放逐をなすにをくくろのろこなりぬ。招録マキてりよ。後ノチにことりよ

下に既るいづの古中いやはをい。釋ノチ日本紀海尾氣ノチをさし。左治ササキ。方カタ。古コ。同トウ。不賢フケン。同トウ。成務セイブ。同トウ。幹カン。同トウ。

はりきさくもぬき入ノチひゆぬにたにてらまへ。伊イ。さ。ね。と。ま。い。ち。の。袋フクロをさく。る。え。ん。を。さ。し。先マツ。流ナガ。心ココロ。

〇方カタ八ヤチなうて。まマ。し。ひ。を。ま。い。ち。ま。い。ち。〇同トウ九ク。〇方カタ一イチ回クワをかりてをまマ。ち。む。ら。ち。を。の。え。は。〇方カタ。〇同トウ九ク。〇方カタ。〇同トウ九ク。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。〇方カタ十ジュウをちのむに。〇靈レイ鳥トウも。大オホな。う。を。の。

唐をま 香し。方十 林の香の香。後紀
つとら かつ 香の香にまつ。ふちんかま かつ
耀し。方十。うかづれ。かよひをを

かちえり 無道而。日京初。かちえて
よに。この。よ日に。いとををを
かちえりも。かちえりも。かちえりも

かちえり 源次。は。かちえり。かちえり
も。かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かけ 搔上。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 同。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 維結。日。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

かちえり 耀し。方十。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり
かちえり。かちえり。かちえり

後後九 若ふよふ一
とさをこたにけりて **か**ーこき 可忍之。日仁徳 **か**ーこくとあれやーちをむむ

乃ここと **か**ーこき 團之。日仁徳 **か**ーこくとあれやーちをむむ
かーこき 乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

不有最之。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ
りれゆきにわりのわらむいせうかきさ **か**ーこくとあれやーちをむむ

き **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

乃におほ **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

山 **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

ハ二肩 **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

将合 **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

けり **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

つぎ **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

乃の **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

けり **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

あけ **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

乃の **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

ち **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

む **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

乃の **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

ん **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

し **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

し **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

し **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

し **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

し **か**ーこくとあれやーちをむむ
乃の。方五 **か**ーこくとあれやーちをむむ

○と俗より ゆし。後。ま。と。こ。お。あ。い。ら。い。つ。り。け。の。女。の。お。あ。の。家。に。ま。り。て
かへり た。ま。け。れ。よ。き。つ。け。を。を。る。ん。力。も。ち。け。ん。ち。り。よ。け。れ。い。回。の

○たて ○方。六。大。き。こ。へ。に。こ。う。ち。ち。ち。顧。ハ。セ。ー
かへり ○方。一。ふ。ら。つ。ひ。か。り。ん

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

○かへり さ。ハ。か。り。な。と。り。に。何。か。セ。ー。あ。い。○方。三。妹。と
かへり ま。ハ。脚。こ。ひ。と

かゝる

方土衣

かゝづらひ

源帚木ひのくほのみよのつらひ
文鞞掌。かりつらちるもれ

かゝる

ことき

方土のうへに敷
まじりきぢのち

かき

筋鬼。方四ちひれりぬ人をあふ
ハ大ちりぢのまり人にぬつくこと

かこ

朝なきに切のめとあひひ。日鷹神天皇幸淡路も而遊捕之於是天皇西望之哉十鹿本鹿
ほあま之便入干掃廣鹿子多門天皇謂左大臣曰其行鹿也後巨海多来中界 對曰諸縣君
牛是年老目之雉致仕不得意朝故以己女髪長媛而貢上矣天皇悅之即喚令
從御船是時人号其著岸之慶曰鹿子水門也凡水手曰鹿子盖始起于是時也

ことひらうの
うへはき かつざい

頭刺。方土まへに花きしち杖きハとこちかきり。同き
きの大主人ハいとまわれやうちをわさしてこにつてマ。けおそ

川をほして後の集ふるべきの大主人ハいとまわれや
さくらがさしてあそびらうてをさる自他たひてはも かつ

七つ屯
きて かつこきひと

賢人。方三いはへの
ちのつこき人とらも かついろは

父母。日竟宮あかろいろハ
あされとるばやひのまり かつ

二とせにちりぬ
見たるをて かつちにてや

顔に所えぬ。方六
かぢらねとやややきとよりちりぢ。まふのち

ちにて
さるふ かつや

有鏡。日神代
内按天書山之男麻之肩被。上はよ麻の肩肩をききて

まさてはものぬぬ
あうにぬにけ かつ

安行。方三
つまの馬よりい かつ

たのしまりちよりけ
かぢとや

機師。和掃工
かお止川。今の橋 かつ

こを梶よりつたたまき。古中
昔足不待安成由流新能。唐韻施而船也 かつ

浄法抄云成作柁多伊之。方七浪。い
髪受。此の髪受り。方七浪。い かつ

昔簡から拂らう。方七浪。い
けつわ。四乃植。ちりり。方七浪。い かつ

こハ。方七浪。い
方から人もあひをうてあう。方七浪。い かつ

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

かゝる

といふく大蛇なりこの

より乃かこしちさきむ

乃てそちひくことにまひるをこまこ

よにもかも。天宮より有るをあらうせんをいふ

ちいやふる神のたとしていのちをも誰うあうらうらうはる。今うつせこの世人のこの

ちいねのもし。神のたをちみこまをえ。後撰きこつたのねのちとせもつきなへ

これよりまゐる。 **かこり** 神のたをちみこまをえ。後撰きこつたのねのちとせもつきなへ

神よりまかぬ **かこり** 神のたをちみこまをえ。後撰きこつたのねのちとせもつきなへ

乃わらひもまぎれ念のまけきに。神の天宮を極るまをまきとあやむ

。後撰拾文よりこり神より極るまをまきとあやむ。まけきこひかぬ **かこあひ**

くつちひ 神相次集。方十八天地の神あ **かこり** 雷神之如。日意并

とめを神のこまきこる。かこもままらまらまら。方十二神のこまきこりも神のまらまら

乃神のこまらまらぬこのは。古今つらひいを并たるは。後撰神のたをまきけもあやむ

をな **かこび** 神より。方まけあられらる。 **かみ** 神より。方ま

み **かこび** 神より。方まけあられらる。 **かみ** 神より。方ま

かむ大 **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

文跡 **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

つらる神あつたきつあ **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

ちよあやませはかこ **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

。方つら方君の神を **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

から神まひせんと **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

みおる 雷神。方十四 **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

風をえ。方五 **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

葉乃雨ま。方 **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

かこ **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

こむ **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

かこ **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

かこ **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

かこ **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

かこ **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

かこ **かこ** 乃ながらかこのみちあや 。日孝後 惟神 注云 惟神者 謂神也

神之内も用降登ミ

。古下 あららぬのち

神之持在

令。方十一

神之持在

令。方十一

神之持在

令。方十一

神之持在

令。方十一

神之持在

令。方十一

神之持在

令。方十一

神之持在

令。方十一

かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かぎつ乃たに
かきつ乃たに

かきつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かぎつ乃たに

かつやなぎ カ 楊之。和木楊。加波夜末木。芽の赤を揚よりひらき。 柏之。方九ま

柳之。方九。つゆもつこの。かつり。かつやなぎ。 かし つかへ。さきえ。

かし いすね。ふ。かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし ときあき。かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

かし かし。和鶏冠木。加倍天乃木。祥色立成。三雞冠木。加倍魚根乃木。

ほららハハハへてこむ
 友のまつまきぬちを
 五七。日 祢代 眉上之鷹 又り表令返るの 枕を
 毎の 塚をさうらうを眉上もて海邊に返りて
 雁之 音。方十 枕の 田乃 夫かり 大の 心
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬
 雁之 使。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 肩の 枕。方七 枕夜 肩の まゆらふ したれ くりきむ
 。和 能 万 学 不 一 三 五 流 傳 秘 煉 也 向 前 方 七 五 七
 。遊 記 念。日 推 界 。

かゝのまゆらふや
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬

かゝのまゆらふや
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬
 求衣之。方九 八 子 馬

なれたと
にまうし
秩又土具
とよこぶ

桔槔和桔槔鉄索井かま
かなぬぐし鏡和鏡
かま布久之揮

○き

きこり

令聞免古上のきこりめをありとまきりてくりめを
とまきりて日 龜祥 柘屨之草和 仁後 不令聞キコサ 万六 吾大君きこり

たまひて

きこり

聞者万九のきこりよむけどきこり
日 非代 妍哉吾年而け之を 万三

軍不継万九ほき保わりぬ

きこり

後紀けあの日のけのほりの

くきつや。万ほきん

きさば

あある者ときららる向。万十

あまてさわらむらきらつや

きさば

あある者ときららる向。万十

式天雲向伏極谷候狹狹池池

きさば

あある者ときららる向。万十

競方十抄ゆ山まらねみきほひを付り。万九の日
形きほりて。月まきほひあむらむも。雪まきほひて。毎ま日毎

まい

日 仲哀 明心 万

まらくし

まらくし

まらくし

まらくし

日 雅畧

まらくし

まらくし

まらくし

方十二ひけくけるきまのをあみ

まらくし

まらくし

からるをむむし

まらくし

まらくし

とまてきこちんさのひぬ

まらくし

まらくし

ああるのころハハきらむとてこころセセと

まらくし

まらくし

者太在葺屋の附死者の

まらくし

まらくし

ひのねめやちまちまち

まらくし

まらくし

まじらひがり

藥攝。○方チキツてまじらひがりつたけマレらるとのまじらひがり
其の月ハキマケル。日推古 十九年五月廿日某獵於鬼田也。○方チ

つぎとまじきのほやくそ
アツリつらふるときにこま

まじらのよ

昨日夜。○方チキツその夜
いえる。○日崇神 昨夜有言人

ののけあも

○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじまじぶ

情夕。○方チ月を乃光とまじま
けをまきまかこのこまのい

まじらひ
○カセあままじらひひこぬから

○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

○日仁佐 春日

まじらひ

岸の目。○方チつらふも又つらふもまじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

まじらひ
○カハ昨日モ今
モ雲リぬりマ

まじらひ

まじらひ

まじらひ

乃みち 北條のこ くにのたて 日ま行 くにのたて 國忠

乃さうひに 日ま行 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

座下 日顯宗 くへぶ 日顯宗 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

先んも 古上自 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

膝戸出向 カキト くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

修車 カキト くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

和反轉 久流 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

國忠

國忠

國忠

國忠

國忠

國忠

國忠

國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

乃 山をさう くにのたて 國忠 くにのたて 國忠 くにのたて 國忠

ころころ物こりりききいりりもあやあや
ころころ 筆目 神代筆

たりの 後記 盡
たりの 此方は耳ぬし
たりの 〇クニニひいむ

つるこち 言痛言言人よいのこちをいふ
つるこち 〇言はたほきり
つるこち 〇言はたほきり

かひひぬ 言痛言言人よいのこちをいふ
かひひぬ 〇言はたほきり
かひひぬ 〇言はたほきり

彼方此方 言痛言言人よいのこちをいふ
彼方此方 〇言はたほきり
彼方此方 〇言はたほきり

こちて 言痛言言人よいのこちをいふ
こちて 〇言はたほきり
こちて 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

いふに 言痛言言人よいのこちをいふ
いふに 〇言はたほきり
いふに 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

あつち 言痛言言人よいのこちをいふ
あつち 〇言はたほきり
あつち 〇言はたほきり

人々も

つげむ

あふちのさむやうけさよ

いん

あふちのさむやうけさよ

祈禱のさむあつちのさむ

あふちのさむやうけさよ

いん

やま

あふちのさむやうけさよ

いん

あふちのさむやうけさよ

いん

あふち

あふちのさむやうけさよ

あふち

あふちのさむやうけさよ

あふち

あふちのさむやうけさよ

あふち

あふちのさむやうけさよ

くさくさの後振りよさくらつくとあふち

あふちのさむやうけさよ

あふちのさむやうけさよ

あふち

あふちのさむやうけさよ

あふち

あふちのさむやうけさよ

あふちのさむやうけさよ

あふちのさむやうけさよ

あふち

あふちのさむやうけさよ

あふちのさむやうけさよ

あふちのさむやうけさよ

あふちのさむやうけさよ

あふちのさむやうけさよ

乃こころふせむ 格伏す。万むすの こえぬ こえぬ。こころあまの

伊ちちちちの林のいづきとこえぬ 伊ちちちちの林のいづきとこえぬ

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こえぬ こえぬ。こころあまの

こぼろのまづるをよめ

腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

。和蝶蓋脈似蜂而細腰者。凡俗通言楚王好細腰

。我玉策言昔者楚王好细腰。昔王楚好細腰

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

こぼろ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

こぼろのまづるをよめ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

。和蝶蓋脈似蜂而細腰者。凡俗通言楚王好細腰

。我玉策言昔者楚王好细腰。昔王楚好細腰

こひのやつこ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

このまづ

こひのやつこ

こぼろ

こぼろ

こぼろ

こぼろのまづるをよめ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

こぼろ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

こぼろ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

こぼろ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

こぼろ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

こぼろ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

こぼろ

。腰細之方輕娘子。そのまづるは腰ほりきせしむら女御後

○日自格意詠いたの（よこするあやしくいふも）けとけせかすく、のそち。時人説
常諺之意曰（伊波終終るふ而翁上宮山背大見）小猿而翁入鹿山背大見而翁山背大見而翁
にもとけてとほらせかす（のをち）そちをちて山背之山背大見以賢
カキテ 阿蘇山カキテ 山又似とす（に）と（又）曰事於其（又）深山相（カキテ）
こびぎのな

くこも

きき終ち終の長（と）
あやひまら（と）
くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）
あやひまら（と）
くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）

くこも

くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）
あやひまら（と）
くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）

くこも

くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）
あやひまら（と）
くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）

くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）
あやひまら（と）
くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）

くこも

くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）
あやひまら（と）
くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）

くこも

くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）
あやひまら（と）
くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）

くこも

くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）
あやひまら（と）
くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）

くこも

くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）
あやひまら（と）
くこも
まきこえさりもんこひてまら（と）

三五春秋詠解卿曰官船名松中若伊

さーてこ
く舟入
ちね 。方廿七
又 。方廿七

ちね 。方廿七
ちね 。方廿七

ちね 。方廿七
ちね 。方廿七

ちね 。方廿七
ちね 。方廿七

ちね 。方廿七
ちね 。方廿七

ちね 。方廿七
ちね 。方廿七

ちね 。方廿七
ちね 。方廿七

ちね 。方廿七
ちね 。方廿七

ちね 。方廿七
ちね 。方廿七

ちね 。方廿七
ちね 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さら 。方廿七
さら 。方廿七

さへさけて
さきまじり
瑞身之防人。日本後防人。月天智島防。万ていり

ささり
後後紀五
幸男。カニむさひにわれさむし。わいひの山の
火酢并命を御まると

さね
宿。カニさねの歌
日上。古下かりののさねみこ
もてわれさねて。カニさね

さぶ
カニ言社夫隊者
棹。カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さき
大行天宮
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さら
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さら
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さら
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

乃ちらむけ
よにえおて
ちへん君にか
まらかも。カニ言社夫隊者

さき
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さき
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さき
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さき
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さき
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さき
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さき
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

さき
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者
カニ言社夫隊者

いづれのことかたにの
衣のかりつれを毛のむ

ささぐ

雀の鶴鶴。古下大雀天を。日大鶴鶴天を。日天をせ日

對言を宿し後南略日臣書る所射鶴鶴入干産るを鳥馬中書いおお其つるを必公お見易
名子の後まの之契。和鶴鶴。依。本。日任後てやふさハわめ上の月かりといわけをいつきり

うへのさきさくらさね
と俗ころさへいふを

ささぐ

牝鹿。方十さやりのつりとのあさくこのの
しららむのきりもひけたまきとら。和牝鹿。依

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる

ハサるにりもにる

ささぐ

狝狐。似。方三人をにんむ
ハサるにりもにる



